

奈良県京奈和自動車道連絡調整会議 議事概要

1. 開催日時：令和7年11月20日（木）14:00～
2. 開催場所：国土交通省 近畿地方整備局 奈良国道事務所 4階 会議室
3. 出席者：奈良県 県土マネジメント部長 安井 広之
国土交通省近畿地方整備局
道路部長 西野 毅
奈良国道事務所長 河本 敦
西日本高速道路株式会社関西支社
建設事業部長 西谷 誠之
奈良工事事務所長 樫山 公洋

4. 議 事：

- 奈良県京奈和自動車道連絡調整会議の規約（別紙2）について確認。
- 奈良県京奈和自動車道連絡調整会議を開催し以下の事項について共有した。

I. 事業進捗状況と課題について

- ・大和北道路について、地質調査結果等による設計の見直し等を実施しており、施工に向けた検討を行っているところ。
- ・大和北道路(奈良北～奈良)については、今後、シールドトンネル工事の安全・安心な施工に関するガイドライン、及び有識者の技術的助言を踏まえたトンネル構造の決定が必要。
- ・大和北道路については、今後、沿道条件を踏まえた架設時の施工計画の精査が必要。
- ・大和御所道路については、今後、大規模な開削トンネル工事を実施予定であり、公共交通等への影響が最小限となるよう施工調整が必要。

II. 事業費の見直しについて

- ・物価上昇による資機材費及び労務費の増額、地質条件の変更、埋蔵文化財調査の追加により、約891億円の増額が生じたため、約15億円のコスト縮減を図ったものの、全体事業費で約876億円の増額を予定しており、今後、近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る予定。

① 前回事業評価以降の資機材・労務費の上昇によって、増額の必要が生じた
(大和北道路：+174億円、大和御所道路：+336億円)

②埋蔵文化財調査の追加による増【+57億円】

- ・事業化時点の埋蔵文化財調査面積は、「奈良県遺跡地図」の埋蔵文化財包蔵地の範囲を調査対象範囲としていた。
- ・発掘調査に先立ち確認調査を行った結果、平城京に関連する重要な遺構が確認される等、発掘調査が必要な範囲が拡大する必要が生じた。

③地質条件の変更による増【+324億円】

- ・予備設計時は近傍の地質調査結果より支持層を推定し、地盤改良の要否や橋梁の杭長を計画していた。
- ・詳細設計に伴い各構造物位置等での地質調査により、支持地盤以深の地質等から支持層を見直したことにより、地盤改良の追加や橋梁の杭長に変更が生じた。

④コスト縮減の取り組み【▲15億円】

- ・近接する専用部、ランプ部の橋梁下部工の一体構造化による橋脚の削減、上部構造の連続桁化による全体構造の一体化に伴う部材の軽量化等による縮減、橋梁上部工の架設工法の見直し（送り出し架設工法→クレーン架設工法）による削減、仮設資材の一部に高強度部材を使用し鋼材量を削減することでコスト縮減を実施。
- ・引き続き、今後の技術の進展による新技術・新工法の採用等のコスト縮減に努めながら事業を推進する。

○奈良県からの意見について

- ・京奈和自動車道は奈良県にとって経済活性化、地方創生・地域振興、防災面などあらゆる面で非常に大きな効果をもたらす道路として県民の期待も大きい。
- ・物価上昇に伴う資機材費や労務費での増額、地質条件の変更による増額については理解するが、今後の事業推進にあたり、更なるコスト縮減の検討を積極的に実施し、地方負担の軽減に努めていただきたい。
- ・早期に整備効果を発現するために、更なるスピードアップを図るなど、積極的に事業推進に取り組んでいただきたい。（仮称）大和郡山北 IC（南側ランプ）～郡山下ツ道 JCT 区間については、第1次国土強靱化実施中期計画の期間内に供用を開始し、令和13年開催予定の国民スポーツ大会に活用できるよう最大限の努力を行っていただきたい。
- ・また、本線整備を最優先に進めて頂いているところではあるが、工程上可能な範囲で、（仮称）田原本 IC の整備、御所南 IC のフル IC 化（南行きオンランプの設置）、未開通となっている側道整備についても事業を推進いただきたい。
- ・引き続き、連絡調整会議等を活用し、事業に大幅な変更などが発生する場合は事前に情報共有していただくなど、これまで以上に密な連携を図っていただきたい。

○連絡調整会議を通じ、事業の進捗や事業費の精査など情報共有を引き続き実施

以上